

着々と進む新北陸トンネル工事

沸騰！

# 800億円ビジネス 波及効果絶大！

トンネル工事12工区  
5年後完成予定

県民が長年待ち望んでいた

北陸新幹線の金沢・敦賀間の整備事業が平成24年8月19日に起工式を迎え、ようやく動き出した。金沢―敦賀の工事延長は白山車両基地北側の高架化を含め114.4<sup>キ</sup>。そのうち県内区間は74.2<sup>キ</sup>、芦原温泉、福井、南越、敦賀の4駅を整備。2025年度末ごろの開業を予定。国土交通省は金沢―敦賀間の総事業費約1兆1600億円。県内区間の事業費は09

年に完成した福井駅部を除いて約6000億円と試算。用地買収が進むと同時に、新北陸トンネルと九頭龍川鉄橋の工事が始まった。

難工事と言われる新北陸トンネル工事に628億1810万円、橋梁・高架橋工事に177億8450万円。これだけでも実に800億円にも上る。トンネル工事は11工区が掘削中および施行事業者に発注済み。残る柿原トンネルは入札告示中で4月には施工業者が決まり、県内トンネル工事の12工区すべてが5年後に完成予定となっている。

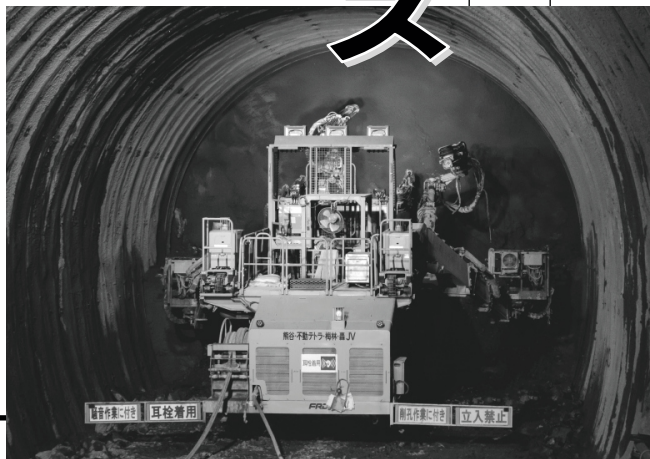
(別表通り)

トンネル残土、残岩  
管理監督を明確に

鉄道建設運輸施設整備機構大阪支社の敦賀事務所への取材では、トンネル残土と残岩は各工事現場での積み込みまでが責任で、あとは工事施工業者と福井県及び自治体の判断に委ねていると聞く。トンネルの掘削により搬出される残土、残岩の量は12工区平均、1工区あたり30万リユール程度と想像、ダンプ1台5〜6リユールであれば延べ6万台となり、2〜3年がかりで実働500日とすると1日平均1



奥野々工区作業入口



熊谷・不動テトラ・梅林・轟JVが掘削中の北陸新幹線・新北陸トンネル（大桐）